

2013.7.7 たすく株式会社 主催

教材マスターの集い MAX 実践報告書



Case: 樹くん

特別支援学校通学・小学5年生

J☆sKep 1.7

TASUC
For Challenged Children



copyright since 2008 TASUC. ALL RIGHT RESERVED.
文章や、写真の転載、研究会等での無断使用はお止めください。
著作権は、ご本人と、たすく株式会社が保持しています。

[スライド1]

プレゼンター

<発表者> ユウさん

<お名前> たつきくん

<学 校> 特別支援学校

<学 年> 小学5年



[スライド2]

たつき くんの様子

<誕生～2歳>

- ・在胎34週、帝王切開で出産。重症仮死。痙性四肢麻痺。
- ・1歳4ヶ月、先天性胆道拡張症で手術。
- ・1歳10ヶ月、非定型自閉症・精神発達遅滞と診断。



[スライド3]

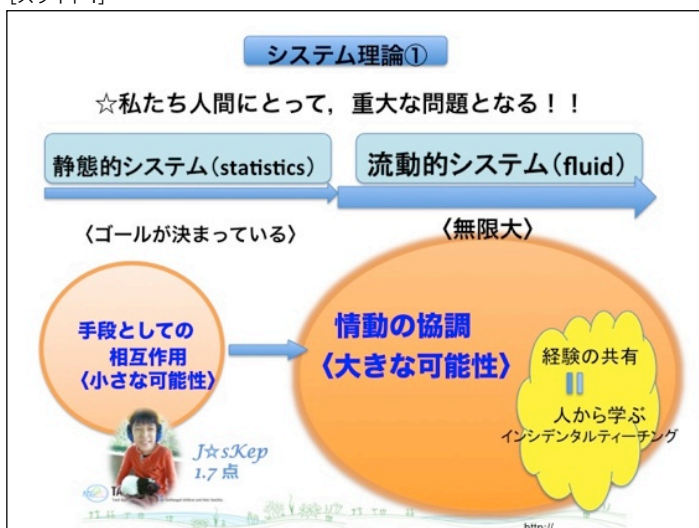
たつき くんの様子

<2歳～>

- ・独歩開始:2歳2ヶ月(片足引きずり)
- ・腕～手先にかけて操作が困難(麻痺)
- ・感覚過敏。物に触ることも難しい。



[スライド4]



昨年5月よりたすくに通っております、都内特別支援学校に通う小学5年生です。

[スライド2]

樹の場合は、生育歴抜きには語ることができません。

妊娠34週目に胎動を感じなくなり受診。そのまま緊急帝王切開で出産。重症仮死でした。蘇生後数日間、生死の境にいて、生存しても植物状態になる可能性を排除出来ないと言われました。

(痙性四肢麻痺というのは、判りやすくいうと脳性麻痺のことです。)

写真は生後二日目のもので、太っているように見えますが、むくみ、腫れ上がっているんです。

その後、奇跡的に回復しましたが左手と右足に麻痺が見られました。立位の体勢がとれるようになった1歳半頃から、両手を持って介助しながらの歩行練習、マッサージ、リハビリ運動を毎日行いました。

[スライド3]

独歩は2歳2ヶ月からですが、しばらくの間、片足をひきずっていました。そのため脊椎側湾があり、重心が少しずれています。

手の動きは特に深刻で、前腕部の回内、回外(手首を内側・外側に回す)、どちらも難しかったですが、麻痺だけでなく、感覚過敏のために、ものを触ることすらも困難な状況でした。

というわけで、樹の持つ困難さの原因は、麻痺と発達障害の境界線がわかりません。

麻痺由来の場合には、動かしたくても動かない、頑張っても出来ないということも考えられるので、何を始めるにも、「超」スモールステップで取り組みました。

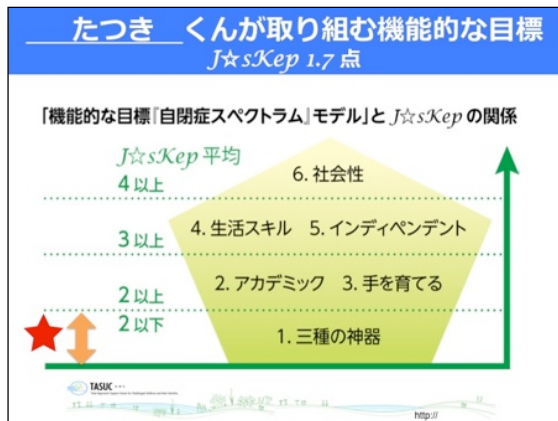
今回は、その中の「はさみ」について、1回切りが出来るようになった6歳以降をご紹介します。

[スライド4]

J☆sKepが1.7点なので、静態的システムの中で取り組んでいます。

ちょっとした変化で不安に陥りやすいので、学びやすいように丁寧に環境を整えて指導しています。

[スライド5]



[スライド5]

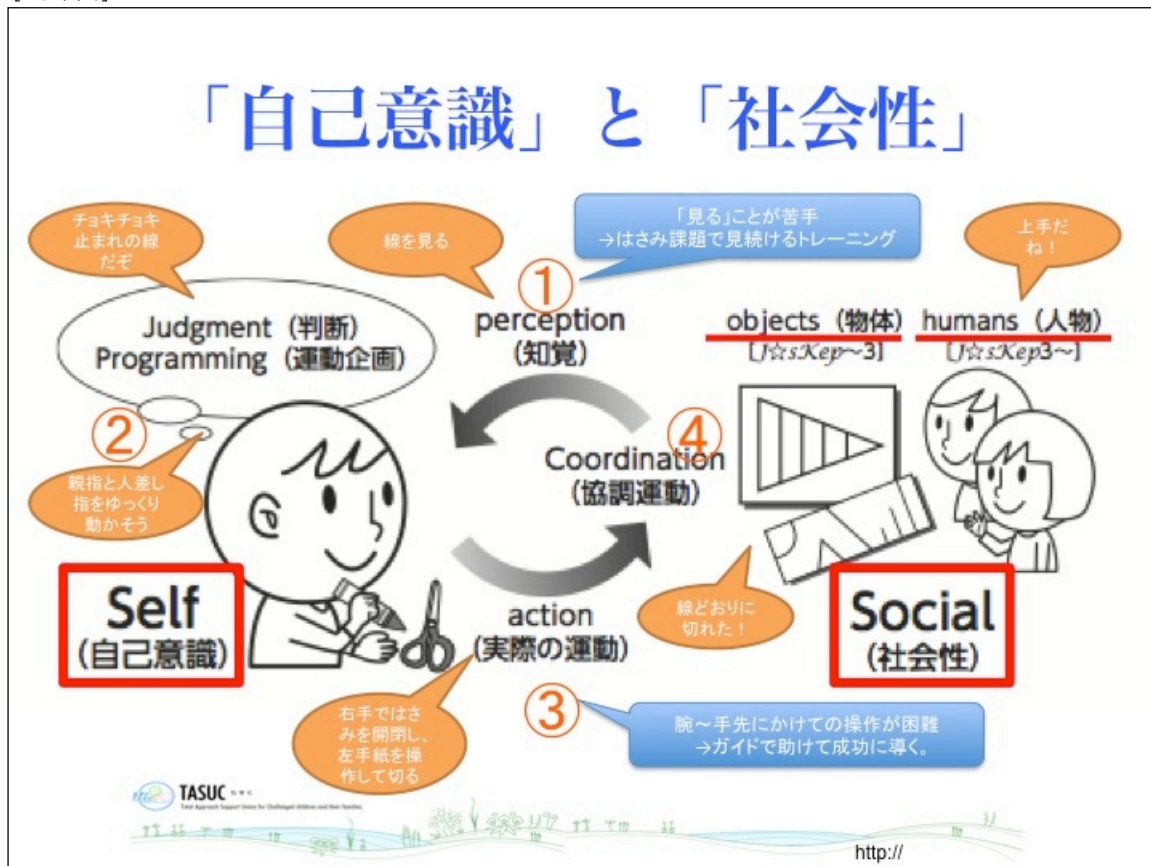
J☆sKep 2点以下の三種の神器, コミュニケーション・スケジュール・タスクオーガナイゼーションが機能的な目標です。

[スライド6]

Perception first cycleの中でも, まず「見る」ことが困難です。両眼視が未だ不十分です。

見る・見続ける課題として, はさみはかなり有効かつ, 指導する側から見ても判りやすい教材でした。

[スライド6]



- 1, 線を見る, 見続ける (Perception)
- 2, 線の通りに切ろう! (運動企画)
- 3, 実際に切る (Action)
- 4, うまく切れた (または, 切れなかった)

———というように, はさみを握ると紙が切れる→即時フィードバックが得られる→結果も目に見える・ほめられる。グルグルとサイクルしていきます。最初の「見る」さえうまくいけば, です。

[スライド7]

療育の実際

2009年 6歳



過敏のため、なるべく触りたくないというふうな持ち方

2011年 8歳



はさみの持ち手はよくなったが、左手で紙をしっかり持てていない。脳も開いている。

TASU
http://

実際の様子を写した写真が「スライド7」です。

[スライド7]

-----写真 左-----

【2009年（6歳）】

過敏のため、なるべく触りたくないというふうなはさみの持ち方です。

-----写真 右-----

【2011年（8歳）】

はさみの持ち手は少し良くなっていますが、紙をしっかり持てていません。

机上課題としての指導開始はこの頃からです。家庭で自己流で取り組んでいました。

[スライド8]

療育の実際



(動画)

脳が開き、背中が丸まっているため、はさみが横向きになり、縦方向に切ることができない。
2012年 9歳

[スライド8]

【2012年の動画】

折り紙を半分に切って、マジックで線を引き、線上を切れるかを見ましたが、脇が開いて背中が丸まっているために、はさみを横に構えるため、縦方向に切ることが出来ませんでした。

運動面の困難さも影響しているように見えました。

[スライド9]

この約2ヵ月後からたすくに通い始めましたが、そこからようやく指導のポイントが見えてきました。

まず机と椅子の高さが合っているか？足はしっかり床もしくは足置きに置いているか？手の位置を机上に固定し、安定した形を保って作業することが大事だと教わりました。三種の神器のタスクオーガナイゼーションの視点です。

当時、よく見ようとする手と手の位置が高くなり、その結果、右肘が前方に出て手首を曲げ、左肘は机から落ちていました。姿勢が斜めに崩れ、猫背になることで、視線も中心を見れずに右目だけで焦点をあてて見ていました。両目でもよく見るためにも（←Perception①です）、姿勢を正すことは療育の基本、スタートラインだと思いました。

[スライド9]

療育の実際

<指導のポイント>

- ・ 机と椅子の高さ
- ・ 足がしっかり床に付いているか
- ・ 脇を閉めて背筋を伸ばして構えているか
- ・ 腕を机にあて、安定した形を保って作業しているか



姿勢を正すことが、療育のスタートラインだ！

TASU
http://

[スライド10]

療育の実際

＜脇を閉めて背筋を伸ばした姿勢を保持するための身体づくり＞

学びの基地での取組



家庭での取組



ものの工夫



<http://>

[スライド10]

また、正しい姿勢を保持するための体幹のトレーニングも学びの基地や、自宅でも実践しています。

身体の中心軸を意識する運動や、バランス運動の他、普段も、リュックの荷物を重くして、しっかり足の裏を使って歩く等、机上課題を成立させるためには、身体作りの視点もなければ始まらないということを教えていただきました。

[スライド11]

療育の実際

＜環境への配慮＞

- ・ 照明: はさみの影で線が見づらい
- ・ 気温・湿度: 汗ばむとはさみが持ちづらい
体調面に考慮したスケジュール
- ・ 衣類: 作業しやすい衣類
- ・ 周囲の音: ジョキジョキ切る音のフィードバック
集中しやすい環境



静態的システムの中で、力を伸ばす！

<http://>

[スライド11]

その他にも、照明や気温、湿度、衣服、周囲が静か等、環境にも気を配りました。

切る時にハサミを倒しがちなので、本人の目線を追って見ると、はさみの影に重なって切り取り線が見えづらくなっていました。手元になるべく影が出ないように照明の当て方を工夫しました。

気温や湿度は、ハサミの課題に限らないことで、手が汗ばんでしまうと、はさみが持ちづらくなったりしますし、そうでなくても暑いと集中力が低下するので、室内の温度・湿度にも気を使

いました。

夏場は特に体力の消耗が激しくなります。学校から帰ってきて疲れていないか等、本人から「今日は疲れています」と訴えることが出来ないので、体調面を観察し考慮したスケジュールに変えることもしていました。

衣服も、半袖は問題ないですが、長袖の時は袖周りにボタンや飾りがついていたたり、袖が長くて手首より下がってきたりすると、やはり集中できないので、動きやすく作業しやすい衣服かどうかチェックしていました。

[スライド12]

周囲が静かというのは、紙を切る際に、音のフィードバック（ジョキジョキ）を得ることを考慮したものです。

他にも、目移りするような気になる音やものは出来るだけ隠すようにしました。

[スライド12]



実物を持ってきましたが、（～実物提示～）はさみは「こどもチャレンジ」のものを使用しています。持つところが太めで、材質の感触も冷たくなり固すぎず、ちょうど良いと思いました。

ばねばさみも、持った感じはけっこう良かったものの、刃先のほうにガードがついていて、視覚的にそこが気になってしまいました。

持ち方に関しては、親指が入りすぎていたので、入り過ぎないように（親指の第一関節で止まるよう）、はさみに加工を加えました。最初は包帯を巻きましたが、巻き終わりの糸が気になりすぎてダメでした。

感触の好き嫌いもあって、包帯ではなく今はティッシュペーパーを巻いています。

親指以外の指は中指と薬指を入れると、人差し指がどうしても突っ張ってしまい安定しないので、人差し指と中指を入れたほうがいいのか、今はそこが試行錯誤している点です。

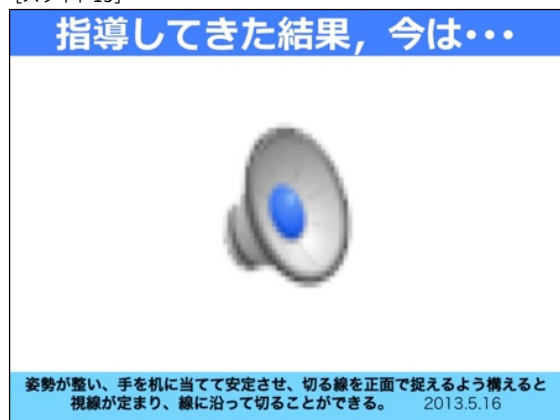
先ほどグループワークの中で、手首の位置をまっすぐ意識して固定することで、比較的（指が開かずに）安定するんじゃないかというアドバイスをいただいたので、今後参考にしたいと思いました。

あと、右側の写真は、紙を長めに切り進める時に、毎回途中からハサミが倒れて不安定になっていましたが、これも感覚から来る問題でした。

肌の過敏が強いので、切れた紙が手の甲に触れるのが嫌で、その感触をよけようとして、手の構えが倒れたり、途中で切るのをやめてしまったりといったことが起きていました。

自分でうまく切れ端をよける方法を身につけるなど、この部分も現在、試行錯誤中です。

[スライド13]



[スライド13]

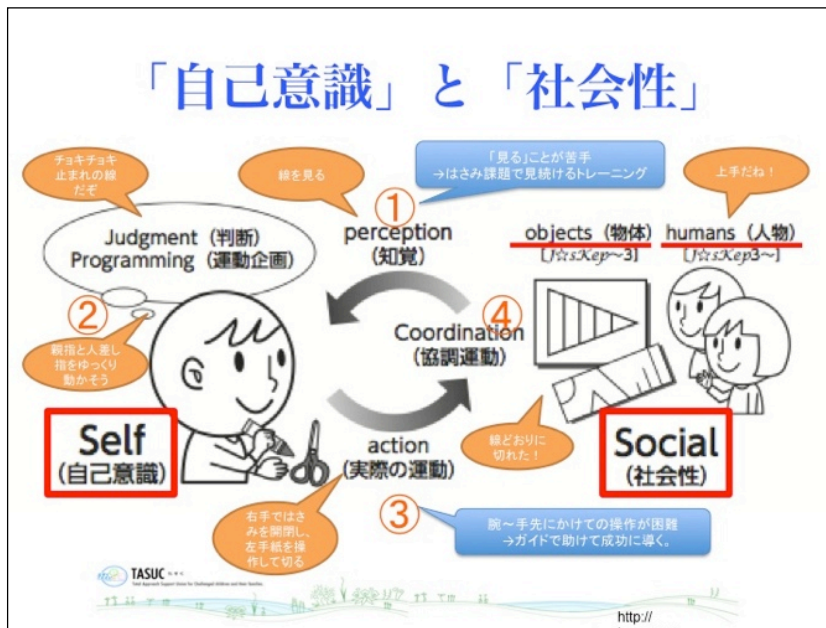
たすくで療育を受けて1年経ちました。最近の様子の動画です。

-----☆動画☆-----

2013年5月16日(月) (27秒)

脇を締めて、背筋を伸ばして構えています。姿勢が整い、手を正面に置くことで視線が定まり、作業しやすい体勢が取れるようになったことがお判りいただけるかと思います。

[スライド14]



[スライド14]

自己流で指導している時は、こういった知識がなく、objectsがありactionさせることしか思い付きませんでした。actionするにも、その前に「正しく対象物を捉える、見る」が出来なければ、その後のjudgmentも運動企画も出来ないわけで、自分で考えて動くようにはなっていきません。

将来、樹が自分で考えて動けるようになるためにも、このPerception first cycleをしっかりとイメージして指導していきたいと思います。

[スライド15]

療育で気づいた点と今後の課題

- 継続させるためのモチベーションへの配慮や工夫
- 成功体験を積み重ねるための支援の入れ方減らし方
- たつきくんの目線になって同じものを見る、聞く、感じる

楽しく療育していこう！！

現在は静態的システムの中で、環境を整えて、できるだけ型の中で学習していますが、その中でも机上課題で学んだ内容を、生活の中に反映させるようにしています。

例えば、はさみの場合は、焼きのりを切ってもらい、食品の袋を切ってもらいなどしてもらって、「ありがとう」というと、本人も嬉しそうだった。

り、得意げな顔をしていたりするので、モチベーションという意味でもそういった取り組みをしています。

本人にやる気がないと始まらないので、やる気を引き出し、継続させるために好子の使い方など、モチベーションへの配慮や工夫が必要だと思いました。これも目下の課題となっています。

先ほどグループワークの中でアイデアをいただきました。はさみの課題であれば、線を切って組み立てると風船のように遊べるというものを教えてもらいました。

子どもですので、お勉強するだけが目的ではなく、「楽しみがその後にある課題」自体をモチベーションに繋げられるというのはいいアイデアだなと思いました。

また樹は、失敗すると落ち込みやすく、次を怖がってしまう特性もあります。自ら失敗から学ぶことは難しいので、出来る限り失敗体験をしなくて済むよう、新しい課題にチャレンジする時は、設定が適切かシュミレーションし、念入りに検証してから始め、課題の難度が高いと感じれば設定の見直しをしたり、支援の入れ方、減らし方、声かけのタイミング等を、毎回検証し続けています。

本人から「ここがいやだ」などの具体的訴えがないので、本人の目線になって同じものを見る、聞く、感じるなど、支援者には想像力も必要です。

重度障害児の場合、コミュニケーションをとることが難しいために、ついつい支援者側で勝手に進めてしまったり、毎回過度にプロンプトして、出来たねーと、自分が満足して終わり！みたいなことがあります。うまく表現や表出が出来ないだけで、本人にもプライドがありますし、こうしたいという気持ちもあるので、過度にプロンプトしてしまつて、成長とか自主性の芽を摘むことにならないように…ということを常に心がけてこれからも、「楽しく」療育していこうと思います。

質 疑 応 答

Q. 感覚過敏で親指も使えない状態から、はさみを使うところまで来た、これまでの過程で感じたことがあれば教えてください。

A. 本当に「さわる」ことから始めました。一番最初は麻痺が強かったのですが、どちらかというと、肢体不自由児を育てている感覚でいました。だからとりあえず、身体を動かせるようになろうと思っていたので、最初からスモールステップありきでした。

また、以前通っていた療育の先生が「本人の努力以前に、もので工夫できることが

あれば、それに対応していいんですよ」とおっしゃっていたのを聞いて、ああそうかと。私も、ものを加工して試行錯誤するのが面白かったので、例えば「さわる」ことに関してだと、普通は子どもが遊べるようになれば、積み木とかを与えるのでしょうけど、木製のものなんて感触が嫌で触れないし、重くて持てない。代わりに、台所用のスポンジを切って積み木代わりにしてみました。（それなら軽いし、持ちやすい。感触もいやではなかった。）

Q. 感覚過敏なのに、「見る・見続ける」課題で、はさみを取り上げたのですか？

A. はさみはとても「わかりやすい」教材だなと思ってです。ipodなどだと、自分の指で触って、何も介さずにフィードバックが

あって、とてもわかりやすい。はさみも同様で、自分の操作「切る」ところが見える、切ったものが見える、切ったところに線が引いてあれば、上手に切れたかフィードバックが見える。そういう「わかりやすさ」が良かったです。

Q. 支援グッズはどのくらいの頻度で見直したり作り替えたりしていますか？

A. 樹の場合はわかりやすく「飽きる」んです。でも捨てることはありません。気に入ったおもちゃなどでも、一度飽きて、半

年ぶりにもう一回出してみるとまた夢中になって遊ぶということもあります。

それに継続してやっていないと、忘れてできなくなったりするので、しばらく置いておいて、「またこれやってみる？」と出してくることもあります。

Q. リュックはどのくらいの重さですか？

A. うちの子はすごく細くて、小学校1年生くらいの体重くらいしかないのですが、軽くしてあげたいと思っていたのですが、たすく

に入って、しっかり地に足を付けるために、リュックを重くするのがいいと聞いて、できるだけ重くしました。通学中のリュックは、ペットボトルにして2ℓくらいの重さはあるのではないかと思います。

発表を振り返って

先日、教材マスターMAXにプレゼンターとして初めて参加させていただきました。

息子は今、10歳。今回、資料作りのために10年前の画像、動画、日記を読み返し、今ここに息子の笑顔があることのありがたさをあらためて感じました。

生育歴から話したのは、息子の場合、麻痺の問題もあるからですが、それ以外にもうひとつ理由があります。

かなり身体的にシビアだった子でも、コツコツ丁寧に個にあった指導を毎日続けていくことで、出来ることを増やせる。そんな例もあるのだということを、いろんな立場の方に知ってほしいと思いました。

課題でのつまづきは、支援者にとって気づきの時であり、子供にとってはステップアップへ向けてのチャンス到来！です。ただ淡々と、その小さな駆け引きを毎日繰り返しています。

発達障害の早期発見に向けての体制は進んできましたが、それ以降の早期介入・早期療育の開始にはまだまだという印象があります。個々に違いはあっても、より早期に介入出来れば、伸ばせる子はもっとたくさんいるはずです。

親は、障害と共に生きる子供の、一番身近な療育者に成り得ると、私はそう思っていますが、以前、「親は療育者になるな。」と言われたことがあります。親が専門用語を使い、細かな質問をすることを嫌う支援者がいます。そんな外部からの支援を一切得ず、一人でがむしゃらに頑張りが過ぎて疲れ果てしまう親子もいます…。

中心に当事者である子供。そのまわりを保護者、先生、その他の支援者が、互いに手を繋いで囲み、やさしく寄り添う。そんな協働の姿が、私の理想です。子供の笑顔を守りたい。ただそれだけが願いです。そしてそれは、支援者の一致した願いであってほしい。

日々の暮らしの中では、それはもういろいろなことがあります。良い事も、嫌だなと思う事も。でも、すごく充実しています。人生、楽しんだモン勝ちだと思うので、この先は今まで以上に、子供たちと楽しんで生きたいです。

子供たちの笑顔のために・・・Simply go on!

プレゼンター ユウさん